宇部市立小中学校適正規模・適正配置計画

～将来あるべき学校の姿とその実現に向けた取り組みについて～

宇部市教育委員会
教育総務課

はじめる前に・・・

◆小中一貫教育

◆施設一体型小中一貫教育

◆義務教育学校　　とは

◆小中一貫教育とは

・連続する小中学校で「めざす子ども像」（教育目標）を共有して、９年間を通じた系統性・連続性のある教育活動を行うもの。

・令和２年度(2020年度)からすべての中学校区で導入。

【メリット】

- 中一ギャップの緩和や解消
- 確かな学力の定着
- 異学年交流などによる精神的な発達

【具体的な取組】

- 「めざす子ども像」を共有し、同じベクトルで児童生徒を育てる
- ９年間を見通したカリキュラムを実施
- 小学校５・６年生で教科担任制
- 小学生と中学生の交流授業
- 小中教員による相互の乗り入れ授業など

【参考】

神原中学校区小中一貫教育グランドデザイン

三校合同学校教育目標　：　思いやりの心をもち、考えて行動する児童・生徒の育成

★宇部市の小中一貫教育の目的

◯9年間の見通しをもった系統性・連続性のある 教育課程の編成・実施
◯学校生活における精神的な安定と人間性豊かな心 の育成
◯系統性・連続性のある学習指導や生徒指導の充実・改善
◯学校と家庭・地域との協働体制と、子どもの教育環境の充実

★めざす子ども像

◯思いやりの心をもつ人（共感）
◯考えて行動する人（自立）
◯地域に貢献する人（郷土愛）

★小中一貫教育で期待される教育効果

◯学力や体力の向上
◯豊かな心の育成
◯教員の授業力や生徒指導力の 向上
◯学校と家庭・地域との連携の強化

★9年間を通した共通事項

学　習	生　活	コミュニケーション能力
○ 自ら学ぶ力を身につける	○ 自立した生活習慣を身につける	○ 礼儀正しく、時と場に応じたあいさつ、言葉遣いができる
○ 人の話をきちんと聴き、自分の意見や思いを伝え合うことができ	○ 時間や決まりを大切にする行動ができる	○ 相手の立場に立って、思いやりのある行動ができる

★発達段階に応じた指導

	地域連携・小中一貫カリキュラム	確かな学力	豊かな心	生徒指導	健康・体力の向上
前期【基礎・基本】	◎地域の有識者や保護者、専門家と協力して学ぶ場を設定 地域の教育資源の活用 小1 ○花の苗植 ○昔遊び 小2 ○校区探検 小3 ○読み聞かせ 小4 ○環境学習 ○彫刻とのふれあい体験 ○1／2成人式の実施	【生涯にわたって学ぶ態度の育成】 学力の基礎・基本(学習規律) ○自分で学習準備をする（時間・学習用具） ○家庭学習の習慣　学年×10分(1年～9年) ○「読み」「書き」「計算」の基礎学力 ○話の聴き方・話し方 話す相手を見て、最後まで話を聞く(小1・2) 相づちや表情で気持ちを表現しながら聞く(小3・4) ○タブレット端末等の基本操作の習得 ○ノートの取り方(タブレット端末等の基本操 ○実験や体験活動の多様な指導方法による教科指導の充実 ○表現（話す・書く）する活動の充実	様々な体験活動を通して育てる思いやりの心 ○美しいものに感動する心 ○道徳教育の充実 ○すすんで挨拶する ○地域、家庭、学校で進んで挨拶をする ○学校行事・地域行事における交流・　体験活動の充実 ○スクールカウンセラーによる教育相談・GHP ○教育相談週間	一貫した生活・生徒指導 「生活のきまり」・「校外生活のきまり」 【きまりを遵守する態度】 ○チャイム着席の徹底 ○給食指導の徹底（運搬、配膳等指導の徹底） ○そうじのきまりの徹底（だまってそうじ） ○基本的生活習慣の確立 ○黙って素早く集合、整列する ○いこいの日を活用して生活習慣を改善す	基本的な生活習慣の定着と運動への慣れ親しみ ○健康診断の結果から健康状態を理解する ○体育の授業での運動遊び・体力づくり ○一校一取組の実施 ○業間体育の実施　○校内駅伝大会 ○正しい姿勢づくり ○ノーメディアデーの実施　○ペタ・ピン・グーの徹底 ○食育指導の推進
中期【習熟・接続】	小5 ○児童会の学校運営協議会の参画 小5 ○地域防災学習 小6 ○神原中学校1日体験入学 小6 ○中学校出前授業 小6 ○人権教育 中1	小中をつなぐ学力の習熟・充実 ○家庭学習の工夫・充実（自主学習） ○話の聴き方・話し方 聴き手を意識して、自分の意見や思いを明確にして話し合う(小5～小6) ○タブレット端末等の活用（表現、プレゼン） ○漢字検定、英語検定の奨励 ○小学校への学習支援	様々な体験活動を広げ、育てる自己有用感 ○感性を磨く読書や文化活動への取組 ○児童会活動の充実 ○行事を通してのリーダー育成 ○相手の気持ちを考えて、発言や行動をする ○相手の目を見て、笑顔でさわやかな挨拶 ○学校行事による感動体験（運動会、文化祭） ○あいさつ運動（月初	○自分で考え、きまりを守って行動する ○2分前着席、黙想の徹底 ○無言清掃の徹底	望ましい生活習慣、運動習慣の確立 ○体育の授業での体力づくり
後期【充実・発展】	中2 ○職場体験学習 ○立志式の実 中2 ○生徒の学校運営協議会参画 中3 ○面接指導 中3 ○地域学習会 ○子育て広場	進路実現に向けた学力の充 ○話の聴き方・話し方 ・場面に応じた聴き方、話し方 ○少人数指導 ○高校生からの学習支援（中高連携） ○タブレット端末等の活用とメディアリテラシー	自己有用感を高め、育てる自己決定力 ○苦しいことから逃げずに、目標をもって日々努力する態度 ○進学説明会	○生徒会活動を通して学ぶ自主的、実践的態度	健康課題の自覚と改善する能力の育成 ○神原中人間ドック　心と身体の健康チェック ○保健体育科の授業による　体力づくり ○校内駅伝大会 ○部活動の活性化 ○一校一取組の実施

○タブレットの活用
○学び合い活動

○地域あいさつ運動
○地域行事の参加・参画
○地域合同清掃活動
○地域ボランティア活動

○部活動に積極的に取り組む

★取組の実際

◇乗り入れ授業
◇補習授業
◇教科部会
◇各校公開授業の交流
◇小中高連携
◇地域ボランティアの推進
◇特別支援教育の連携
◇道徳部会と合同研修
◇「長期休業中のきまり」の見直し
◇合同補導活動　◇部活動見学・体験
◇SCやSSWとの連携・相
◇領域部会　◇ノーメディアデイ　◇いこいの日
◇3校合同学校保健安全委員会
◇合同引き渡し訓練　◇子育てカフェ

小中一貫協議会【校長会、教頭会、教務主任会、生徒指導部会、研修部会】　**3校合同研修会**　　**3校合同学校運営協議会**

【参考】

令和6年度　神原中学校区小中一貫教育取組計画書

（神原中・神原小・見初小）

めざす子どものすがた	つけたい力	視　点
思いやりの心をもつ人（共感） 考えて行動する人（自立） 地域に貢献する人（郷土愛）	・人の話をきちんと聴き、自分の意見や思いを伝え合うことができる。 ・相手の立場に立って、思いやりのある行動ができる。 ・礼儀正しく、時と場に応じたあいさつ、言葉遣いができる。 ・生活習慣について、自ら考え行動できる。	わかりやすい 子どもと考える ふり返りができる

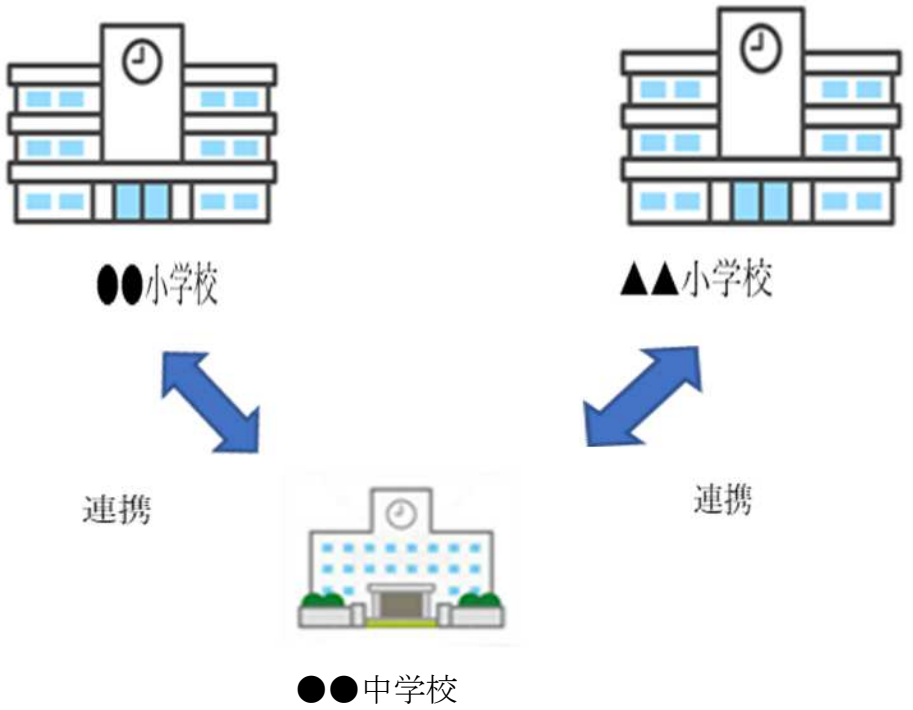
今年度の重点取組	A　学び合い活動の活性化（小・中） B　思いやりの心を育む体験活動の充実（小・中） C　基本的な生活習慣の定着（小１～小４） 　　自立した生活習慣の定着（小５～中３）
具体的な方法	A 小中交流授業研究会の推進 　各校とも、学び合い活動の活性化を目指した授業づくりに取り組む。さらに、各校の授業研究会（授業参観や協議会）に互いに参加することで成果や課題を確認し、自校の授業づくりに生かす。 B「地域合同清掃活動」の実施 　2学期に、中学生と小6とで地域の公園等の清掃活動を行う。その際に、児童生徒の交流を進めるだけでなく、地域の方々と合同で行うことで地域とのふれあいを深める場とする。 B「服の力プロジェクト」に参加 　宇部中央高等学校、小学校と協力してユニクロの事業に参加する。 C「神原中学校区メディアコントロール」の実施 　中学校の試験期間中に合わせて、実施する。生活習慣を見直し、改善する機会とする。
「つけたい力」のふり返り	・人の話をきちんと聴き、自分の意見や思いを伝え合うことができたか。（全国学力・学習状況調査及び県学力定着状況確認問題質問紙） ・相手の立場に立って、思いやりのある行動ができたか。（学校評価アンケート） ・礼儀正しく、時と場に応じたあいさつ、言葉遣いができたか。（学校評価アンケート・行事等での振り返り） ・生活習慣について、自ら考え行動できたか。（学校評価アンケート・ノーメディアデーでの振り返り）

小・中学校をなめらかに「つなぐ」ために

乗り入れ授業の取組	（小学校）教科担任制の取組	交流行事や中学校説明会等の取組
中学校からの乗り入れ授業 　実施対象学年：小5、小6 　教科：体育科・音楽科の授業（中学校より） 　実施頻度：学期に1回程度	【専科教員による指導】 神原小：音楽科（4・5年）　理科（5・6年） 　　外国語科（6年）　外国語活動（3年） 見初小：理科（5・6年）　書写（3・4年） 【授業交換による指導】 神原小：国語・算数他	中学校体験 　実施対象学年：小6 　内容：授業体験・部活見学 　実施時期：2学期と3学期 交流行事 　あいさつ運動や地域合同清掃での児童生徒の交流

◆施設の形態

従来の小中一貫教育
（施設隣接型・分離型）



施設一体型小中一貫校

同一敷地内に、小学校と中学校を設置する施設整備の形態

◆学校の形態

	小中一貫型小学校・中学校	義務教育学校
校長	小学校・中学校に１人ずつ	１人
教職員組織	小学校・中学校に１つずつ	１つ
学年	小学校６年 中学校３年	１年生から９年生

計画の説明

◆計画期間

令和６年度(2024年度)から令和１５年度(2033年度)までの１０年間

計画策定５年後には必要に応じて見直す。

◆学校のあるべき姿

　児童生徒が、多様な考え方に触れ、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばしていける集団規模と、安心・安全な教育環境のもとで、地域と連携を図りながら、義務教育９年間を見通したつながりのある教育を提供することにより、児童生徒の確かな学び（健やかな成長）を保障できる学校

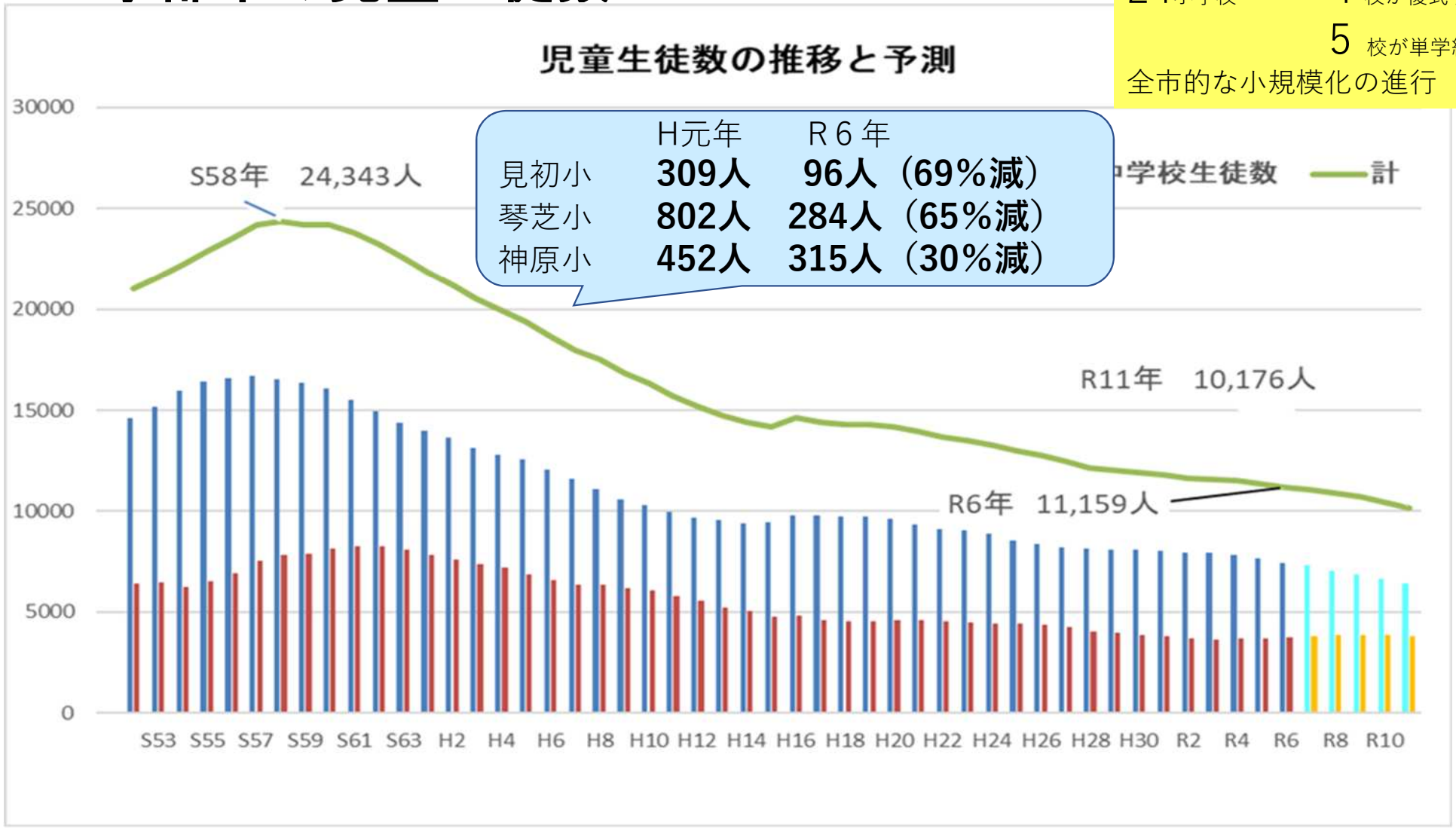
【理想形】

　児童生徒の社会性を育むことができる集団規模を有し、校区の中心に位置する同一敷地内に小中学校がある義務教育学校

宇部市の現状と課題

1　宇部市の児童生徒数

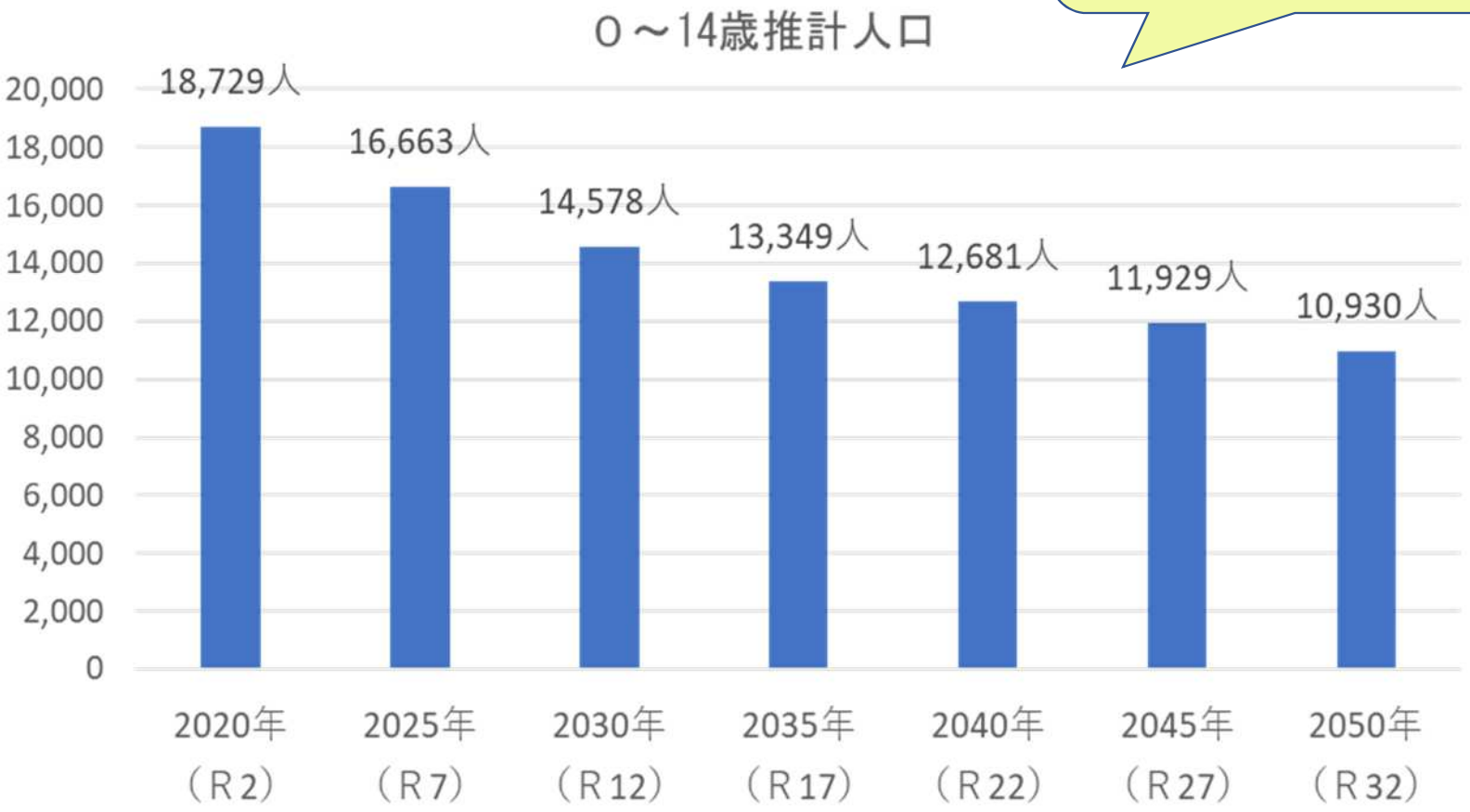
学校規模（令和６年５月１日現在）
24小学校　　4 校が複式学級
5 校が単学級
全市的な小規模化の進行



	H元年	R６年
見初小	309人	96人（69%減）
琴芝小	802人	284人（65%減）
神原小	452人	315人（30%減）

本市の将来推計人口

30年間で７，７９９人
４２％減少



出典：「日本の地域別将来推計人口（令和５年(2023)年１２月公表）」（国立社会保障・人口問題研究所）

2　小中一貫教育

■小中一貫教育とは

連続する小中学校で**「めざす子ども像」**を共有して、９年間を通じた系統性

・連続性のある教育活動を行うもの

⇒**「中一ギャップの緩和や解消」「確かな学力の定着」**などの実現を目指す

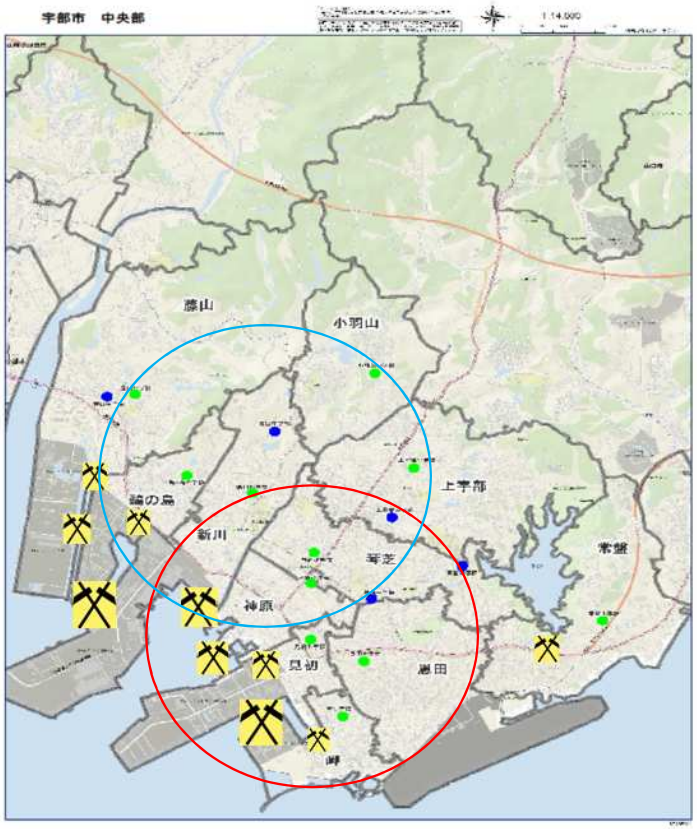
令和２年度からすべての中学校区で導入

問題点

進学先が分かれる小学校では、どちらか一方の中学校と連携することとなるため、連携先でない中学校に進学する児童については、系統性・連続性のある教育活動が難しい

3　学校選択制

通学区域の弾力化を図るため、学区の一部の自治会に居住する児童生徒が、住所地の属する学区の学校（就学校）に加えて、隣接学区の学校を選択できる制度



平成２０年度から通学区域に偏りが生じている学校で導入

問題点

利用者の増加により本来の就学校で大幅に入学者が減少している学校がある

4　学校施設

施設（校舎）の建設年度一覧

令和６年４月１日現在

小学校名				経過年数	中学校		
				70年以上	藤山	常盤	
	藤山	神原	鵜ノ島	69年～築60年	桃山	厚南	
恩田	新川	原	万倉	59年～築50年	西岐波	東岐波	
厚南	上宇部	常盤	東岐波	49年～築40年	楠		
厚東	小羽山	西宇部	見初				
			吉部				
川上	船木	琴芝	黒石	39年～築30年	川上	黒石	神原
		小野	二俣瀬	29年～築20年	上宇部		
			西岐波	19年～築10年	厚東川		
			岬	築10年未満			

※体育館、倉庫、クラブハウス等は除く。

◆課題解決に向けた取組の方向性

①小中一貫教育の推進

進学先が分かれる小学校の解消を図る

②望ましい学校規模の確保

一定の集団規模を確保するための基準(適正規模・適正配置基準)を定めて、通学区域の変更や適正配置の検討を進める

③学校施設の整備

学校施設の更新時期を踏まえた、学校の統廃合の検討を進める

◆望ましい学校規模と学校配置の基準

《適正化のための地域区分》

市街地地域：北部地域以外

北部地域　：厚東、二俣瀬、小野、船木、万倉、吉部

■望ましい学校規模の基準

	市街地地域	北部地域
小学校	12学級以上（1学年2学級以上）	6学級以上（1学年1学級以上）
中学校	6学級以上（1学年2学級以上）	3学級以上（1学年1学級以上）

■望ましい学校配置の基準

	通学距離	通学時間
小学校	おおむね４Km以内	おおむね１時間以内
中学校	おおむね６Km以内	おおむね１時間以内

◆配置の適正化に向けた具体的な取組

①小中一貫教育の推進

一つの小学校からは一つの中学校の進学となるよう、中学校の通学区域を優先的に見直し、必要に応じ小学校の通学区域の見直しを行う。

【進学先が分かれる小学校の中学校区域の再編】

	現在の進学先	再編後	対象地区
常盤小	西岐波中・常盤中	西岐波中	常盤全区
琴芝小	上宇部中・常盤中	神原中	琴芝全区 （琴芝１区から1-１０区を除く）
		常盤中	琴芝１区から1-１０区
鵜ノ島小	桃山中・藤山中	藤山中	鵜の島全区

→ 恩田小へ区域変更

■神原・上宇部中通学区域の児童生徒数

【令和６年度】

神原中

	令和6年度			
	1年	2年	3年	計
生徒数	50	54	64	168
学級数	2	2	2	6

上宇部中

	令和6年度			
	1年	2年	3年	計
生徒数	142	152	138	432
学級数	4	4	4	12

【令和11年度推計】

神原中

	令和11年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	107	104	119	330
学級数	4	3	4	11

上宇部中

	令和11年度推計			
	1年	2年	3年	計
生徒数	113	96	88	297
学級数	4	3	3	10

【令和6年度の琴芝小通学区域の学校選択制利用者数と割合】

選択学校	琴芝自治会区	対象者数	利用者数	利用割合
神原小	3区、3－11区、4区、4－2区、15区、40区、40－1区	114	79	69.3%
恩田小	1区、1－5区、1－10区	95	80	84.2%
常盤小			8	8.4%

【新たな神原・上宇部中学校通学区域の概略図】

※中学校の通学区域の変更に伴い、琴芝１区から１－１０区の小学校の通学区域は恩田小学校に変更します。

②望ましい学校規模の確保
検討対象校

《市街地地域の検討対象校》

岬小学校、見初小学校、神原小学校、鵜ノ島小学校

《北部地域の検討対象校》

厚東小学校、二俣瀬小学校、小野小学校、
万倉小学校、吉部小学校

複数の学校が集中し、老朽化が進んでいる学校がある**市街地地域の検討対象校から優先的**に取り組む。

③学校施設の整備

施設一体型小中一貫校または**義務教育学校の設置**を目指す

【市街地地域の適正化の方向性】

■**検討対象校：見初小学校、神原小学校**

３小1中（見初小、神原小、琴芝小、神原中）の施設一体型小中一貫校の設置に合わせ統合を進める

■**検討対象校：鵜ノ島小学校**

２小１中（藤山小、鵜ノ島小、藤山中）の施設一体型小中一貫校の設置に合わせ統合を進める

■**検討対象校：岬小学校**

本計画期間中は、適正化は行わず小規模校のメリットを活かした教育の充実を図る

◆施設一体型小中一貫校のメリットは？

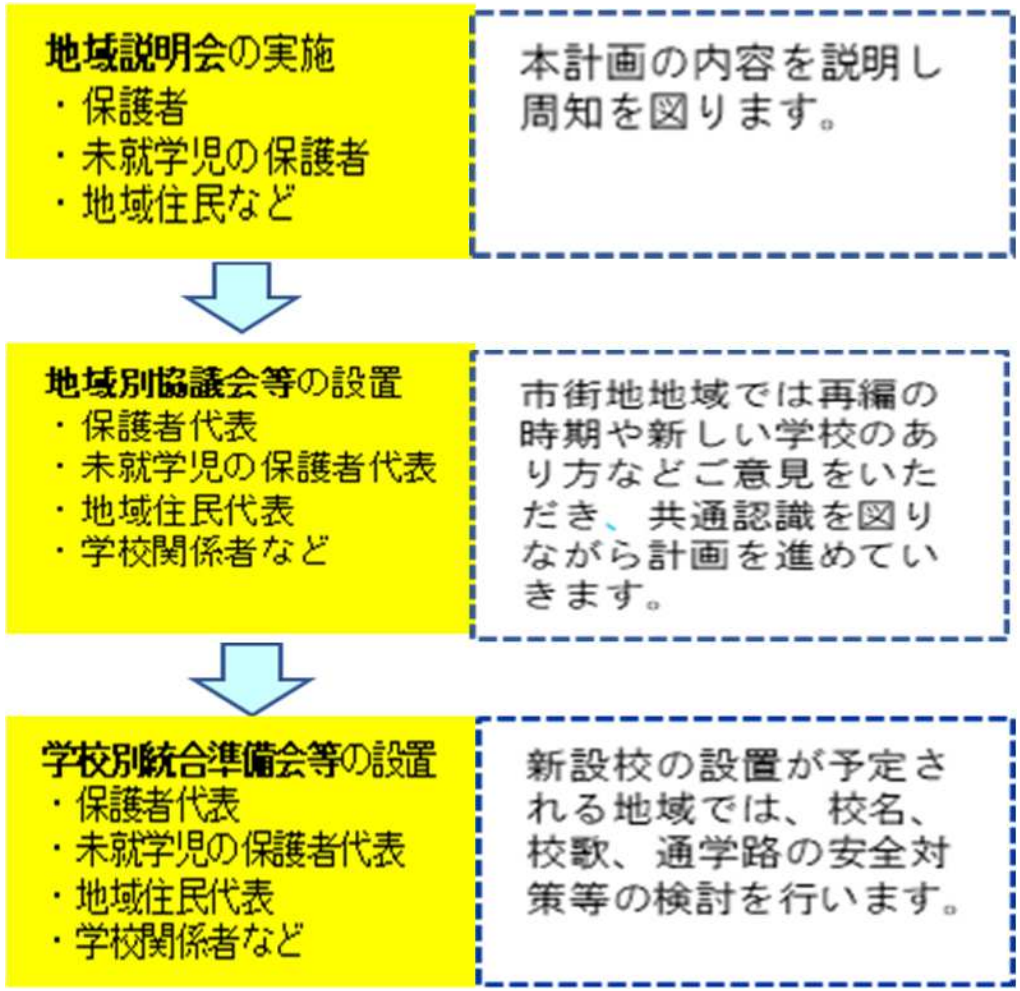
- 移動時間がかからず、交流授業や乗り入れ授業がしやすくなる。
- 異学年交流スペースなどを設けることにより、交流が深まり、上級生が手本となろうとする意識が高まり、下級生は上級生にあこがれる気持ちが向上する。
- 教職員が小中合同の会議や研修を受けやすくなる。
- 集団規模が大きくなることで、様々な専門性を備えた教職員を配置する事ができる。など

教育環境の充実により、児童生徒のコミュニケーション能力や自己肯定感の向上へ

子ども達の確かな学び（健やかな成長）へ

◆計画の進め方と配慮事項

（1）計画の進め方



（2）配慮事項

①児童生徒の不安解消

・事前の交流機会の充実と再編後のきめ細やかなケア
・緩やかな移行に向けた仕組みの検討

②児童生徒の通学支援

・スクールバスや公共交通機関の活用
・学校と保護者や地域の連携

③小規模校の課題への配慮

・中山間地域では、特認校制度の活用や移住定住策の推進に地域や市長部局と連携し取り組む。

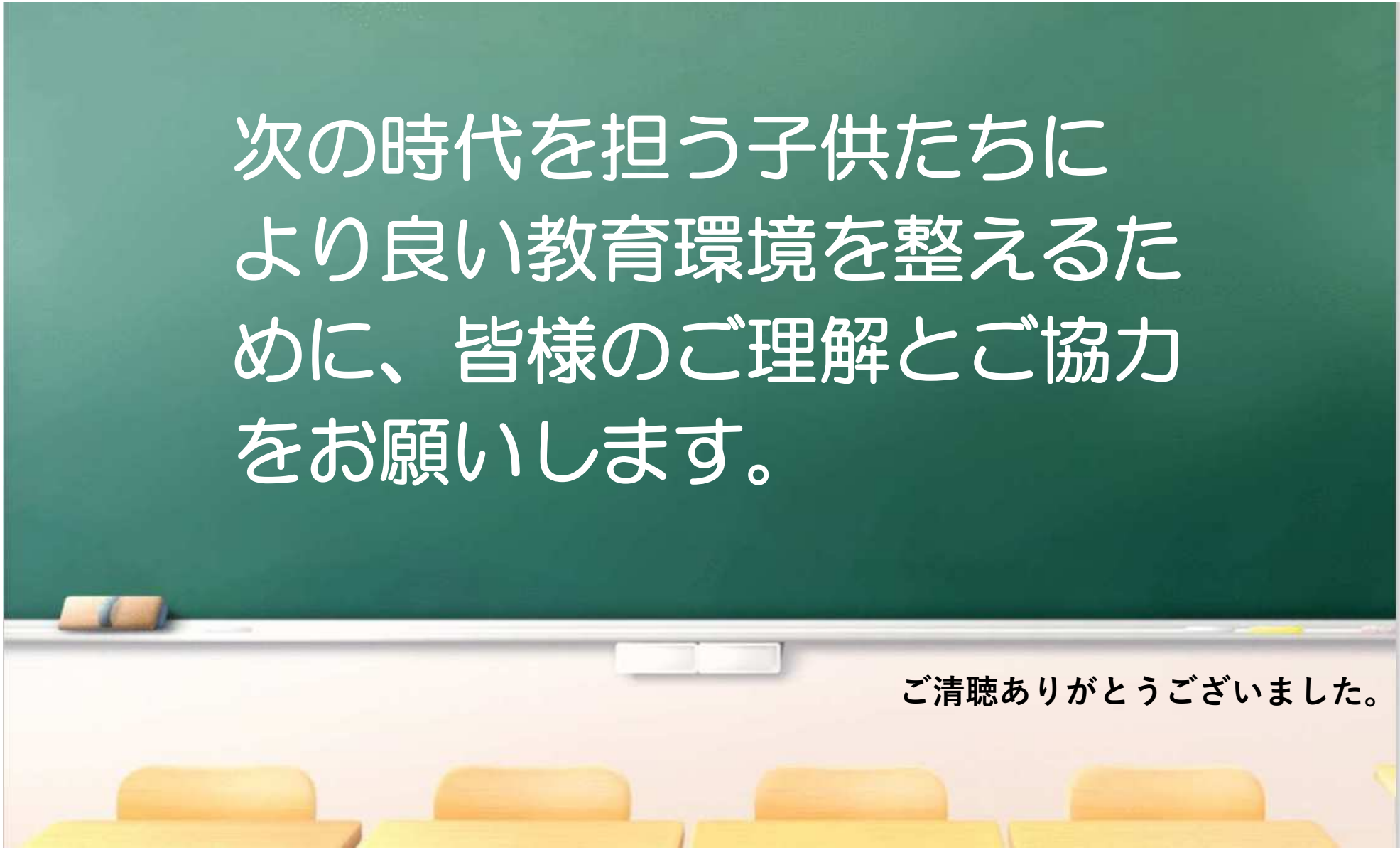
（3）再編スケジュール

<table>
<tr><th></th><th>R6年度
（1年目）</th><th colspan="2">R7年度
（2年目）
R8年度
（3年目）</th><th>R9年度
（4年目）</th><th>R10年度
（5年目）</th><th>R11年度
（6年目）</th><th>R12年度
（7年目）</th><th>R13年度
（8年目）</th><th>R14年度
（9年目）</th><th>R15年度
（10年目）</th></tr>
<tr><td>藤山中</td><td rowspan="3">地域説明</td><td colspan="2" rowspan="3">地域協議
再編準備</td><td colspan="6">中学校区の再編（藤山小・巽ノ島小）</td><td rowspan="4">2小1中
小中一貫
校開校</td></tr>
<tr><td>藤山小</td><td>2小1中
小中一貫校
基本設計</td><td>実施設計</td><td colspan="4">施工</td></tr>
<tr><td>巽ノ島小</td><td colspan="6">開校準備委員会設置（開校に向けた検討・準備）</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="6">藤山中学校へ進学</td></tr>
<tr><td>神原中</td><td rowspan="4">地域説明</td><td colspan="2" rowspan="3">地域協議
再編準備</td><td colspan="9">中学校区の再編（見初小・神原小・琴芝小）</td></tr>
<tr><td>神原小</td><td colspan="2" rowspan="2">地域協議
（3小1中小中一貫校）</td><td colspan="4" rowspan="2"></td><td>3小1中
小中一貫校
基本設計</td><td>実施設計</td><td>施工
R19年度
開校目途</td></tr>
<tr><td>琴芝小</td><td colspan="5" rowspan="2">開校準備委員会設置
（開校に向けた検討・準備）</td></tr>
<tr><td>見初小</td><td colspan="9">神原小・琴芝小との交流や合同学習・小規模校のメリットを活かした教育の充実（R19年度新設一貫校へ）</td></tr>
<tr><td>常盤中</td><td rowspan="3">地域説明</td><td colspan="2" rowspan="2">地域協議
再編準備</td><td colspan="9">中学校区の再編（恩田小・岬小）</td></tr>
<tr><td>恩田小</td><td colspan="9">小学校区の再編（琴芝小の一部編入）</td></tr>
<tr><td>岬小</td><td colspan="11">恩田小との交流や合同学習・小規模校のメリットを活かした教育の充実</td></tr>
<tr><td>西岐波中</td><td rowspan="2">地域説明</td><td colspan="2" rowspan="2">地域協議
再編準備</td><td colspan="9">中学校区の再編（西岐波小・常盤小）</td></tr>
<tr><td>常盤小</td><td colspan="9">西岐波中学校に進学</td></tr>
<tr><td>厚東小
二俣瀬小
小野小
吉部小
万倉小</td><td>地域説明</td><td colspan="3">他校との交流や合同学習・小規模校のメリットを活かした教育の充実、地域や市長部局と連携した児童生徒増加策の推進</td><td colspan="7">R11年度時点で5年先までの児童数を確認し、
児童数の推移が学校全体で12人未満の見込み
となった場合は適正化を推進</td></tr>
</table>

【関連校】

<table>
<tr><td>桃山中</td><td rowspan="2">地域説明</td><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="7">中学校区の再編（小羽山小・新川小）</td></tr>
<tr><td>上宇部中</td><td colspan="7">中学校区の再編（上宇部小）</td></tr>
</table>

次の時代を担う子供たちに
より良い教育環境を整えるた
めに、皆様のご理解とご協力
をお願いします。



ご清聴ありがとうございました。